

「真砂地区地元代表協議会における協議」に関する追加質問

質 問 事 項	回 答
反対した人をどうやって納得させたのか。	将来、今よりも各校とも小規模校化していく状況が予想される中、「子どもたちにとってのより良い教育環境はどうあるべきか」をさまざまな視点(学校の規模と配置、小規模校のメリットを生かす工夫、教職員の配置、施設・設備面の整備等)から繰り返し協議し、意見集約を行っていく中で「ひとつの方向(統合することが必要である)」に集約されていった。期限を切った話し合いではなく、十分に時間をかけて行った。
千城台地区は物理的に離れており、「総論賛成」でも「各論で強い反対」があると予想される。真砂地区の廃校(跡施設)になる地域のPTA・住民が納得した理由、説得事項を教えてください。	より良い教育環境を整備するとの観点から、隣接する学校施設(グラウンドや体育館等)を最大限有効に活用すること、また、学校が防災施設(避難場所等)の役割を担っていること、小・中あわせた地域の学校配置のバランスを図ること等を考慮に入れて協議し、合意に至った。
統合に関する要望書を了承したとあるが、誰が了承したのか。	地元代表協議会において、要望書に盛り込むべき事項を確認し、それに基づいた原案(協議会会長・副会長・事務局で作成)を提示した後、一度各団体へ持ち帰ってもらい話し合ってもらった。各団体での話し合いの結果をふまえて、再度地元代表協議会で話し合い、決定した。
統合の要望書を公開してほしい。	別紙参照(既にホームページでも公開済み)
(統合が決まった後)不安や反対意見はなかったのか。	地元代表協議会の委員を通じて各団体とのやり取りを十分に行った上での合意であり、その経過や結果も文書等により十分に周知してきたので、基本的には反対意見はないととらえている。統合校開校に関して不安に感じている点については、統合準備会(地域代表、両校のPTA組織の代表、校長・教頭・教務主任、教育委員会関係各課で構成)において解決を図った。新設校の具体的な内容については、昨年11月に「新設校説明会」を開いて説明した。また、事務局(教育委員会企画課)に対して寄せられる問い合わせ等に対しても丁寧に経過を説明してきた。